

全国クリエイター会員の皆様、お元気でしょうか。季節の移ろいとともに、冬の訪れをしみじみと感じる今日この頃です。

さて、私達は、誰しも自分らしく堂々と生きていたいと思っていますが、毎日の生活の中で、他人の目や他人の言動が気になることは誰にでもあります。しかし、まったく気にしなくなったら、他人を軽視し、高慢になって、人間関係を壊すことにもなります。「自分は自分、他人は他人」と簡単に割り切れないことで生じる悩みは、生涯付きまとうものです。しかし、堂々と自分らしく生きてゆくためには、自分を成長させたいという心と、他人を信じるという心を育ててゆくことが大切です。自分の弱さ、欠点に気づくことは、自分を正しく成長させるために大切なことですが、自分を責めたり傷つけたりすることは、かえって逆効果になります。人は一人では生きてゆけません。家族や仲間の支えがあってのものです。本当の正しさと美しさや明るさを持った人は、そんな自分自身の弱さや欠点を知り、足りないところは周囲の人達から補われ、支えられているということを実感している人です。自分を卑下して他人を敵視することなく、自分は自分の役割を果たし、弱くとも時には勇気を出して、自分らしい花を咲かせてゆきましょう。「利に放(よ)りて行えば、怨み多し」自分に都合の良いことばかりをしている人は、うらまれることも多く、人が離れてゆく原因にもなるという意味です。他人と協力し、ゆずり合いの心は必要不可欠なことですね。

「知行合一(ちこうごういつ)」という言葉を経験となく聞いたことがあるのではないのでしょうか。中国の王陽明が唱えた陽明学の教えです。知行合一とは、学んだことを実践することで、理解し体得してゆけるのであって、学ぶだけでは自分のものにならないということです。この格言を大事にしたのが、日本の陽明学者である中江藤樹や吉田松陰で、いずれも実践実行を重んじたといえます。私達は、日々多くの情報や知識を得ていますが、大切なことは、どう活用してゆくかだと思います。知行合一は、個人の成長だけではなく、共に学ぶ仲間と協力して課題を解決することで、よりよい成果をつくり出すことができます。実践、実行、そして結果、現実を見直し、反省し、改善してゆくことが大切です。実践と反省を繰り返すことで、私達は成長し続けることができるように思います。

また、反省する心の第一の法則として、問題解決を他人に求めることをやめる。次に、常に正しいのは自分で、相手が悪いと決めつけないこと。最後に、すべての揉め事は、“他人を変えようとするところ”から始まることに気づくこと。この3つの項目を基本に、自分自身を省みることが大切ではないかと思えます。

偉大なリーダーとは。教育に関する次のような有名な言葉があります。

「凡庸な教師は、ただしゃべる。良い教師は、説明する。優れた教師は、自らやってみせる。

そして、偉大な教師は、生徒の心に火を付ける」

教師としての在り方について述べたものですが、私達の仕事の中で考えてみると、誰に対しても同じことを話すだけでは、凡庸なリーダーです。次に、相手に理解できるように説明できるのが、良いリーダーです。そして、言葉だけではなく、自ら模範を示せるのが、優秀なリーダーです。人は、言葉より行動（取り組む姿勢、立ち振る舞い）を見て、その人を信頼できるかどうかを判断します。最後に、偉大なリーダーは、人の心に火を付けます。やる気を引き出し、士気を高めることができます。口先だけではなく、正に後ろ姿で周囲の人を導いてゆく「率先垂範(そっせんすいはん)」の人です。簡単なことではありませんが、ぜひ目指してゆきたいものです。

山本五十六の言葉「やってみせ、言って聞かせて、褒めてやらねば、人は動かじ」

人を褒めるとは、共に喜ぶということです。他人の喜びを我が事のように喜び祝福すること。一緒に気持ちになって喜ぶことが大切ですね。

秋も深まり、朝晩冷え込むようになりました。寒空に冬の訪れをしみじみと感じる今日この頃です。体調には十分気を付けて過ごしましょう。

いつもグラント・イーワズを支えて頂き、心より感謝申し上げます。いつもいつもありがとう！